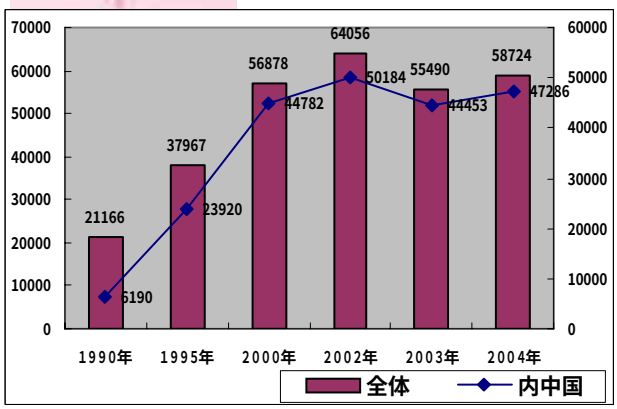
■ 読む統計

毛織物輸出、約９０％は中国向け



（梳毛・紡毛織物合計、単位千㎡、出所＝財務省「貿易統計」）

過去数年来、「産地再生の一つの方向は輸出」と毛織物輸出努力が続けられているが、その約９０％（２００４年）は中国向けだ。同国向けは２００２年に5,０１８万平方ﾒｰﾄﾙで過去最高を記録、２００３年にはいったん減少したものの、２００４年は再び増加した。その大半は加工貿易による製品持ち返り用と見られていたが、わが国アパレルや商社の現地素材調達の進展で２００３年は落ち込んでいた。それが２００４年に再び増加したのは、持ち返り用ではなく、中国国内アパレル向けの純輸出が拡大しているものと思われる。いわば、中国が単なる加工基地から毛織物消費市場に変化しつつあるわけで、今後の推移が注目される。その先行きを占う意味で「元」の動向の関心が高まっている。

なお、２００４年の中国以外の国別輸出シェアは香港７％、ベトナム２％、韓国２％、フィリピン２％、台湾１％、北朝鮮１％、その他５％となっている。この中の香港に関しても、中国がらみの輸出と見られており、それを含めると中国向けは９０％近くに達する。過去、わが国の毛織物輸出はアメリカが主力だったが、EC 向けを含めて「壊滅的」状況となっており、再構築が望まれる。

他産地は今、活路を求めて

博多織、５年で売上倍増計画（「繊研新聞」）

帯地を中心に年間４０億円の出荷額の博多織を、５年をかけて８０億円の市場規模にしようという戦略会議が、このほど福岡市で発足、活動を始めた。福岡商工会議所が実施者となる事業で、産官学が協同して博多織で多彩な商品を開発し、国内外で展示会を開いてブランドを育成する。

≪コメント≫

発足したのは「２１世紀博多織ＪＡＰＮブランド戦略会議」。福岡経済産業局、福岡県、福岡市、福岡商工会議所、九州大学ユーザーサイエンス機構、博多織工業組合、三越福岡店、香蘭ファッションデザイン専門学校など２１団体で構成している。

博多織は７６０年以上の歴史があり、７０年代半ばには年間２００億円近い出荷があったが、和装需要の縮小と共に減少し、現在は業者数４５社、出荷額約４０億円の規模になっている。その９０％は帯地で、バッグ、ネクタイ、洋装生地などが１０％。

会議では①海外に認められる新しい商品を開発する②工業組合から事業参加者を募集する③ワーキングチームを作る④目標を「５年後の市場規模を８０億円」とする、などを決めた。

確かに消費者の和装離れから和装の需要は大きく落ち込んでおり、繊維・ファッション産業のなかでは最も厳しい産業である。その業界で規模を倍増しようと言うのだから尊大な計画である。恐らく洋装やグッズ分野の商品開発が中心になるものと思われるが、その意気込みは高く買いたい。

尾州産地でも様々なプログラムが進行しているが、目標数値を設定したものは少ない。「数値は自分を縛る」というから、博多織の５年後に注目したい。